

令和8年度 静岡市立静岡看護専門学校 学校関係者評価会議 議事録

日時：令和8年 4月 22日（水）

15時30分～16時45分

会場：静岡市立静岡看護専門学校 1階会議室

出席者：

公益社団法人静岡県看護協会

常務理事 平野 一美

医療法人社団宝徳会小鹿病院

看護部長 間淵 元子

静岡市立静岡看護専門学校後援会

会長 岩井 孝仁

地方独立行政法人 静岡市立静岡病院

副看護部長 朝比奈 ひろみ

事務局：松永副校長、突田事務長、宮田教務長、矢野、瀧、脇田、吉田（書記）

議事

1 副校長挨拶及び趣旨説明（副校長）

（松永）

3月6日に送り出した3年生全員が国家試験に17年連続で合格できたこと、無事に新年度を迎えられたこと、またこの令和8年度は学生の確保が難しい中44名の新入生が入学してくれて、賑やかに新年度を迎えられてうれしく思います。

今回の会議では昨年度の実績を振り返り、学内の委員会で評価した内容について、今後の改善点と実績報告をさせていただきます。

今後の本校の教育の質の向上のために（委員の）皆様からそれらに対する忌憚のないご意見をいただき、今後の学校運営に活かしていきたいと思っています。

なお、会議の進行については委員の皆様にお預けいたします。

（突田）

本日の会議は、委員全員が出席しておりますので、「静岡市附属機関設置条例」第7条の規定により会議は成立となります。

2 自己紹介

(各委員)

平野→間淵→岩井→朝比奈の順に挨拶

(事務局)

松永→突田→宮田→矢野→瀧→脇田→吉田の順に挨拶

3 委員長、副委員長選出

(突田)

本会議の委員長は「静岡市附属機関設置条例」第6条の規定により、「委員の互選により定める者」とされております。

委員の皆様からどなたかご推薦がありましたらお願いいたします。

(間淵)

平野委員を推薦します。

(突田)

ただいま、間淵委員から委員長に平野委員をご推薦いただきましたが、委員の皆様いかがでしょうか。（特に異議なし）

それでは、平野委員に委員長をお願いすることといたします。

(平野)

了承

4 副委員長の指名（委員長）

(突田)

議事に入ります前に、委員長から副委員長の指名をお願いします。

(平野)

間淵委員にお願いしたい。

(間淵)

了解しました。お引き受けします。

5 議題

(1) 自己点検・自己評価結果について

(松永)

資料に沿って説明

I 教育理念・教育目的

II 教育目標

III 教育課程経営

IV 教授・学習・評価過程

V 経営・管理過程

VI 入学

VII 卒業・就職・進学

VIII 地域社会／国際交流

IX 研究

以上9項目について順に説明を行った。

(平野)

この説明についてご質問、ご意見等いかがでしょうか。

(間淵)

学生の実習等について、自分が何を目指しているのかを自分の言葉で理解するのが大切なこと。学生が到達目標、あるべき姿を理解できるようカリキュラムマップなどをと考えていらっしゃるのは非常に重要なことと思う。

(カリキュラムマップを)作成されたら、(自分たちの)病院の方でも(看護師教育に)活用したいのでぜひ教えて欲しい。

(松永)

学生とともに学ぶ、という考え方で作成について検討したい。

(岩井)

実習施設を増やしたとのことだが、(増やした)実習施設はどのような環境だったのか、学生たちの反応はどうだったのか。

(松永)

患者さんに対する言葉づかいなど、注意を受けることもあった。(学生の)社会性を育てたいと考えている。患者さんの様子がわかってくると学生なりに主体的に勉強しているようだった。

(矢野)

慢性期・回復期の実習先では、一人の患者さんに対して長くかかわることができるため、実習中に学生の変化がわかると実習先の指導者から言われた。

(松永)

(他校の学生に比べて) 自分の意見を言って終わりではなく、やり取りがあり、お互いに関心をもって話し合えているという話もいただいています。

(平野)

指導者と教員間の連携は大事だが、初めての受け入れ先での課題はどのようなものがあるか。

(松永)

事前の打合せを行っていたが、実際、実習を開始してみないとわからないこともあった。学生たちの状況を共有しながら、指導者と指導方略を確認していった。

(岩井)

学生のステップアップとなるよう、それぞれの学年にあった実習先を選んでいるのか。

(松永)

1年生は様々な療養の場へ、2年生は地域での体験をしたのち、後半の実習から一人の患者さんに長くかかわれるようなところへ、3年生は、母性・小児・精神の領域に、最終的には「チーム医療」に関われるようなところで実習している。

(宮田)

同じ病院でも学生の学年や状況に合わせて、病棟は受け持ちの患者さんを選定されている。

ただしすべての患者さんが実習生を受け入れてくれるわけではないため、そこは病院側（指導者側）と相談して、受け持ち患者さんを決定してもらっています。

(朝比奈)

チーム医療について、(こちら) フォローできる点はあるか。

(宮田)

栄養士さん他チームの皆さんが学生たちの意見を聞いてくれて、学生の情報を活かしてくれている。学生は自分が発信した情報が現場で生かされていることがわかり、情報共有の大切さを学んでいる。

また他校、理学療法学科の学生たちとの多職種連携ワークのおかげで学生もいろんな人たちと話をしやすくなっている。

(岩井)

新入生のうち男子学生が4人ということで、何か支援を考えているか。

(松永)

からだの清拭などの授業は男女を分けているが、血圧測定などは分け隔てなくやっている。

気持ちを言えない学生もいるかもしれないので、配慮したいと考えている。

(瀧)

偶数人数なので今年は良いが、学年に一人の時は配慮が必要と考えている。他学年の男子学生が授業を空けてフォローしてくれることもある。

新入生へのインタビュー結果では、女子学生が多く、心配した部分もあったが、思ったより案外平気とのことだった。

(間淵)

合理的配慮が必要な学生はいるか。

(松永)

今のところ該当事例はないが、準備は行っている。

(間淵)

実習で、他校の学生で合理的配慮の必要な学生を受け入れた。本人の同意を得た上で情報提供していただき、支援方法について検討した。

実際には大変な部分もあったが、本人は「自分は将来こういう病院で働きたい。」と話してくれて、実習は無事終了できた。

(松永)

丁寧な対応が必要と思っている。

(間淵)

臨床現場では学生の情報がないと（実習も）上手くいかないと思う。

(平野)

実習現場の拡大などによって教員は大変になると思うが、教員の業務時間について具体的な対策はあるか？

(松永)

実習先との連携をどう行えば良いかが課題。

(矢野)

今年度同じ施設で実習を担当している教員間でペアを組み、授業等で学校に戻る教員のグループの状況を共有すると共に、病棟指導者とも連携を図り、連絡先が明確になるようにした。

(宮田)

4月のうちから、実習がないときに演習サポートが多く必要になる演習を組むようにスケジュールを組んでいるが、すべてが予定どおりいかないこともあるため、演習の準備から実施までの時間の負担はやはり大きくなっている。

(平野)

教員たちの健康も大事です。

(瀧)

実習先に、ある程度任せることも以前より出来ているが、実習先が分散化したため教員が一人で担当している実習先もある。教員が不在の状態になるわけにもいかないため、その点は問題がある。

(朝比奈)

こちらにある程度任せていただいても良いように対応している。
ただし指導者が時間が足りない状況にならないよう気を付けてもいる。

(平野)

学校と病院の信頼関係が重要だと思います。

(2) 自己点検・自己評価について

(平野)

自己点検・自己評価の内容について気になる点は特にありませんか。

(全員) 特になし

では、委員も皆さんからの意見を取りまとめて、学校関係者評価委員の評価としてよろしいでしょうか。

委員全員了承

(平野)

事務局から何かございますか。

(松永)

一つ上手くいくと次も上手くいく、と繋がっていくということで、本日のご意見を踏まえ、今後も改善等を行って学校の運営に生かしていきたいと考えます。

(平野)

学校関係者評価委員の評価は以上となりますので、事務局に進行をお返しします。

6 学校関係者評価の公表について（事務長）

(突田)

会議の議事録等はホームページ上で公表します。

(松永)

会議は今回のみだが、任期は1年となりますので、今後もよろしくをお願いします。

(突田)

今後も学校運営に対するご意見等ありましたら、何時でもいただけたらと思います。また、学校からも皆さまにご意見を伺うような機会もあると思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、令和8年度静岡市立静岡看護専門学校 学校関係者評価会議を閉会いたします。 本日はありがとうございました。